

研究ノート

複合施設における子育て支援センター利用者の 図書館利用と意識調査

伊東 直登・常世田 良・柳澤 潤

Library usage and awareness survey of the childcare support center users in a
composite facility

ITO Naoto, TOKOYODA Ryo, and YANAGISAWA Jun

要 旨

近年、多くの図書館が複合施設内に建設されている。その建築上の形態や複合する施設間の連携状況はさまざまである。複合施設は図書館にいかなる影響を与えているのか。その実態を調査し、今後の図書館経営について検討することは避けて通れない課題である。こうした考えに基づき、2018年10月1日から同月30日まで、複合施設内で塩尻市立図書館本館に隣接する塩尻市子育て支援センターにおいて、利用者アンケートにより図書館に対する意識調査を行った。その結果、複合施設の利点を生かした相乗効果による図書館利用が行われ、高い評価が存在していることが明らかになった。

キーワード

図書館 複合施設 子育て支援センター 図書館環境

目 次

- I. はじめに
- II. 調査対象と方法
- III. 調査結果
- IV. 考察
- V. 今後の課題と展開

謝辞

注

文献

I. はじめに

1. 背景と目的

「図書館は単独施設であることが望ましい¹⁾」とする見解は、多くの図書館関係者が共有する図書館施設の在り方であろうと考えられる。しかし近年において、全国で新築される公共図書館の半数以上が複合施設である。例えば、2006年度から2015年度までの10年間に新築された図書館220館では、その74.3%を複合施設が占めている²⁾。

理由として、施設の複合化がもたらす建築工事費および維持管理費の節減は、自治体経営にとって大きな動機となることがあげられる。さらに、図書館建設への補助金が1998年度で廃止された結果、他の施設とともに総合的に計画される市街地再開発事業等の補助制度の活用が行われるようになったことも複合化を加速していると考えられる。これに加えて、2014年から全国的に始まった公共施設等総合管理計画策定³⁾に伴い、公共施設の統合計画も進められている。

また、図書館自身のサービス形態としても、課題解決型図書館や交流の場、サードプレイス、地域活性化など、静かな読書の場としての施設以上の役割が図書館に求められるようになってきている^{4)、5)}。このために、図書館が図書館以外の組織や機関と連携し、あるいはそれによる相乗効果を発揮することが期待されるようになってきた。このことが、施設の複合化を進める追い風になっていることも考えられる。

こうした背景から考えると、今後も図書館が複合施設内に建設される傾向は続くと考えられる。図書館が複合施設内に所在することは、図書館に何をもたらしているのか。周囲にどのような影響を発生させているのか。あるいは、周囲からどのような影響を受けているのか。その状況を分析し、今後の図書館運営や図書館サービスの在り方を考えていくことは、重要な意味を持つ。

図書館と複合する施設との関わりを考えるには、大きく分けて当該施設の管理運営者側と、利用者側の二面性をもって検討することが必要と考えられる。両者は、相互に影響し合いながら、同時に図書館とも関係し合いながら、図書館との複合関係に対する評価となり、是非論ともなりうる。図書館側ばかりが、単独が望ましいと考えているわけではないことは容易に想像できることだからである。

こうしたことを背景として意識しつつ、本研究は、図書館と複合する施設とが、相互にどのような影響を及ぼし合っているかを検討する端緒として行うものである。特に今回の調査は、複合施設による相乗効果を積極的に生み出そうと考えている施設の実体を調査することに主眼を置いた。そのため、複合施設内で図書館に隣接する施設のなかで、壁によって物理的に隔てられ、別々に運営されているのではなく、空間を共有して目や耳で相互に意識し合える位置関係にある施設を選定し、その利用者を対象に、図書館の利用動向や意識調査を行うこととした。

II. 調査対象と方法

調査は、長野県塩尻市の大門地区に所在する「塩尻市市民交流センター」内の「塩尻市子育て支援センター」で行った。

1. 調査施設の概要

塩尻市市民交流センター(以下、「えんぱーく」)は、2010年7月に開館した複合施設である。建設事業は、市街地再開発事業の一環として行われた⁶⁾。図書館、子育て支援センター、市民交流エリアからなる公共施設部分が約9割を占め、残り約1割に民間の事務所等が入居している。

建物全体で、敷地面積4,937.45㎡、延床面積11,901.64㎡、地上5階、地下1階の規模を持つ⁷⁾。

図書館は、塩尻市立図書館の本館(中央館)が所在し、蔵書約395千冊⁸⁾を所蔵する。えんぱーくの1階と2階の約半分が、図書館の開架エリアで、地下にバックヤードと閉架書庫を持つ。図書館部分の面積は、3,286m²⁷⁾ある。

塩尻市は、2008年5月、約2年をかけて「塩尻市市民交流センター運営管理方針」を策定し、公表している。ここにおいて、えんぱーくの基本コンセプトを「知恵の交流を通じた人づくりの場」と定めている⁹⁾。そして、その実現のためにさまざまな施設の機能が、「単に集合しているだけの施設では、期待される機能を発揮することはできない」とし、「諸機能が有機的に連携する『融合施設』を目指す」とした¹⁰⁾。

えんぱーくが、そこに複合する諸施設が単に同居するだけの施設にならないことを目指して建築され、運営されていることは、本調査の基盤となる当該施設の性格付けのために言及しておく必要がある。

2. 子育て支援センターの役割

子育て支援センターは、1995年4月の厚生労働省(当時 厚生省)通達「特別保育事業の実施について」¹¹⁾により、地方自治法第244条の2第1項の規定に基づいて定められた施設である。通達に記された事業の趣旨を次に掲げる。

地域子育て支援センター事業は、子育て家庭の支援活動の企画、調整、実施を担当する職員を配置し、子育て家庭等に対する育児不安等についての相談指導および子育てサークル等への支援並びに地域の保育ニーズに応じ、地域の各保育所等の間で連携を図り、特別保育事業を積極的に実施するなど、地域全体で子育てを支援する基盤を形成することにより育児支援を図ることを目的とする。

入園前の子育てを支援する施設であり、来館する利用者は基本的に、0歳から3歳までの乳幼児とその保護者(両親または祖父母)ということになる。

塩尻市では、本アンケート調査時において、塩尻市大門地区に所在する「塩尻市子育て支援センター」と、塩尻市吉田地区に所在する「塩尻市北部子育て支援センター」^{注1)}の2ヶ所を設置、運営している¹²⁾。今回の調査は、前者の「塩尻市子育て支援センター(以下、「支援センター」)」で行った。

3. 支援センターの概要

支援センターは、1999年、塩尻市高出地区に新築開園した「塩尻市立日の出保育園」に併設して開設された。その後、2010年7月、えんぱーく内の1施設として移転新築され現在に至っている。

施設面積は190.85m²^{注2)}。プレイルーム、事務スペース、授乳室、子ども用トイレが主な施設である。えんぱーく1階に所在し、図書館児童コーナーに隣接している(図1)。図書館のBDS(Book Detection System)による図書館資料管理システム区域内に所在しており、このことからみれば、図書館の中に所在するとも言い得る。このほかに、1階に保護者からの相談に対応するための相談室と、2階に託児やイベント、交流事業などに支援センターが優先的に使える部屋を1室確保している。

図書館児童コーナーのカウンターと、支援センターのカウンターは並んで設置され、図書館職員と支援センター職員は、同一空間でカウンター内業務を行っている。子ども達が遊ぶプレイルームと図書館はガラスによって仕切られているが、開館している間、ドアは開けられたまま運営され、利用者は自由に出入りをしている。

支援センターの利用者は、図書館児童コーナーのカウンターと閲覧席、書架の前を通過して入室することになる。施設間を壁で物理的に仕切った形の複合施設に比して、両者間が可視化され、動線も交差するという、両施設の連携を意識した施設

配置になっている。

支援センター職員の職種構成は、アンケートを実施した2018年10月1日現在において、事務職1名、保育士6名の、計7名が配置されている。

子ども達が遊んだり親同士が交流したりできるプレイルームの利用時間は、午前9時から正午までと午後1時から4時までで、子育てに関する相談業務はこの時間にしばらくられない。休館日は、図書館と同じく水曜日となっている¹³⁾。

図書館の利用登録カードと支援センターの入館カードは共通となっている。諸機能が有機的に連携する「機能融合」を目指す¹⁰⁾とするえんぱーくの運営方針に沿った取り扱いである。塩尻市立図書館は、利用登録における居住要件を、旧図書館が所在した塩尻総合文化センターの利用者範囲を

継続させている。それは、塩尻市が所属する松本広域連合の範囲のほか、諏訪、木曾、上伊那、大北の各広域連合^{注3)}圏内に住所を所有する住民の利用を可能にしている¹⁴⁾。このため、支援センターの利用者も塩尻市域を超えた広範囲に及ぶ。

支援センターの利用には、最初に利用者登録が必要だが、以降の利用時には住所に関する確認は行われていない。今回の調査においても住所地に関する把握はされていない。

4. 調査対象と方法

2018年10月1日から同月31日までにおいて、支援センターが開館した日は、延25日あった。この間に支援センターを利用するために訪れた人に対

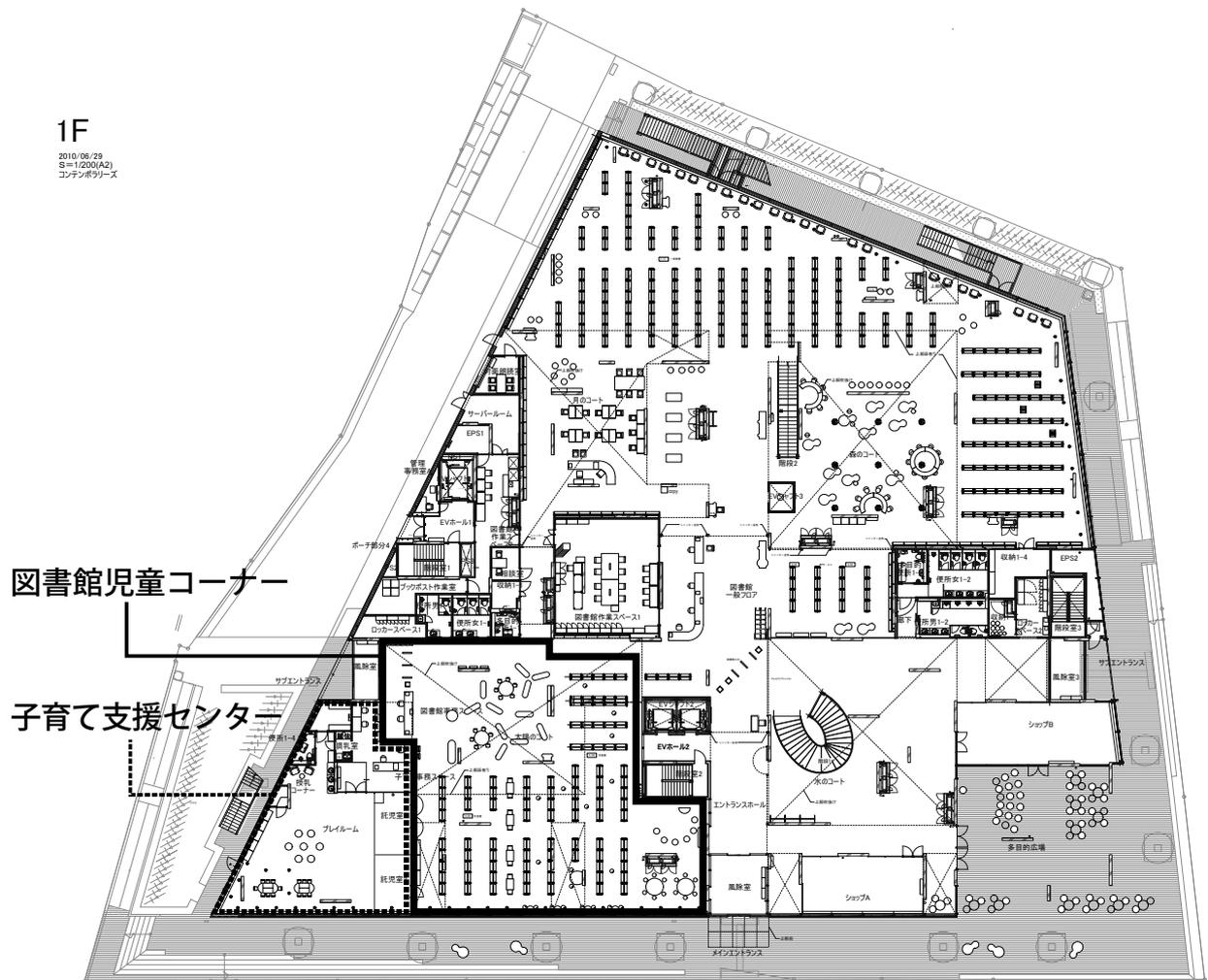


図1. えんぱーく1階平面図

して、受付カウンターで個別にアンケートの依頼を行った。

調査作業は、支援センターの協力により行われた。来館した利用者(保護者)に対して、支援センター職員が個別にアンケート用紙への回答記入を依頼し、支援センター滞在中に記入した用紙を回収した。

乳幼児を連れての来館であり、回答者の負担を軽減するために、質問数を絞るとともに選択質問を中心にした。

結果的に、163名からの回答が得られた。アンケート調査実施期間中における、子どもを含む延べ利用者数は、1,438人であった。2018年度における支援センター利用者総数は、16,030人である^{註4}。

5. 調査内容

アンケート内容は、以下の問1から問10までによって行った(資料1)。

問1 回答者の属性として、性別と年齢を尋ねた。年齢については、10代、20代、30代、40代、50代、60代以上の6区分の選択で設定した。

問2 回答者が支援センターの利用を始めてからの経過年月について、①3ヶ月以内、②6ヶ月以内、③1年以内、④1年以上の4択を設定した。

問3 支援センターの利用頻度について、①1週間に1回以上、②1月に1回以上、③年に数回程度の3択を設定した。

問4 隣接する図書館の利用について、①1週間に1回以上、②1月に1回以上、③数ヶ月に1回程度、④利用していない、の4択を設定した。

以下、問5から問9までは、問4で図書館を使うと回答(①～③を選択)した人を対象にした設問となっている。

問5 親子の図書館利用場所について、①児童コーナーの利用がほとんど、②児童コーナーが多く、一般コーナーも使う、③一般コーナーの利用がほとんど、④一般コーナーの利用が多く、児童

コーナーも使う、⑤両コーナーを使う、の5択を設定した。

問6 図書館の利用内容について、①閲覧、②貸出、③イベント参加、④チラシ入手等、⑤その他(自由記述)の5択を設定し、複数回答を可とした。

問7 図書館が現在のように隣接していない場合を仮定して、①図書館は利用していない、②他の図書館を利用するが利用頻度は今より低い、③他の図書館を同じように使っている、の3択を設定した。

問8 図書館が隣接していることについて、①抵抗感がある、②最初戸惑ったが、今は良いと思っている、③子どもにとって良い配置の施設だと思う、の3択を設定するとともに、当質問に関する自由記述欄を設けた。

問9 隣接する図書館への期待や要望について自由記述欄を設けた。

問10 問4で、④図書館を使っていないと回答した人を対象に、図書館に何があれば利用すると考えるかについて自由記述欄を設けた。

Ⅲ. 調査結果

1. 回答者の属性(問1)

問1では、回答者について性別および年齢を尋ねた(表1)。

回答者163名の性別は、男性15名、女性147名、不明(未回答)1名であった。

年齢構成は、10代0名、20代41名(25.2%)、30代100名(61.3%)、40代14名(8.6%)、50代0名(0%)、60代以上8名(4.9%)であった。60代以上は祖父母世代と推定される。

2. 支援センターの利用期間(問2)

問2では、支援センターの利用を始めてからの経過期間を尋ねた(表2)。

3ヶ月以内の利用者が44名(27.0%)、3ヶ月から6ヶ月以内の利用者が23名(14.1%)で、両方を合わせた6ヶ月以内の利用者は41.1%を占めた。

さらに、6ヶ月から1年以内が37名(22.7%)、1年以上の利用者は59名(36.2%)であった。

3. 支援センターの利用頻度(問3)

問3では、支援センターの利用頻度を尋ねた(表3)。

1週間に1回以上利用する人が61名(37.4%)、1月に1回以上利用する人が66名(40.5%)で、合計した毎月1回以上利用する人が77.9%を占めた。リピーターの多い施設であることがよくわかる。年に数回程度の利用と回答したのは26名(16.0%)であった。

また、設問には初めての来館であるとの答えを用意しなかったが、7名からその旨の回答があった。選択肢が無いため欄外へ記載されていた。同じく初来館であっても、今後の利用を想定して選択肢から答えた回答者がなかったとは言えないことから、163名中、少なくとも7名(4.3%)が初来館であったととらえておく。利用期間が長くても3年程度の施設であり、入れ替わりが頻繁である様子が見られる。

4. 図書館の利用状況(問4)

問4では、支援センターの利用者が図書館をどの程度利用しているかを尋ねた(表4)。

週1回以上利用している人が24名(14.7%)、月1回以上利用している人が65名(39.9%)、数ヶ月に1回程度利用している人が47名(28.8%)で、合計136名(83.4%)が図書館を利用していると回答している。支援センターを毎週または毎月利用する人が多いことから、図書館利用も毎週および毎月利用する人が89人(54.6%)と高い数値を示している。

一方、まったく利用していないと答えた人は、27名(16.6%)であった。

5. 図書館の利用場所(問5)

問5では、問4で図書館を利用していると回答した136名に対して、図書館の利用場所を尋ねた(表5)。

図書館を、支援センターが隣接する児童コーナーと、その他の一般コーナーに分けての、大きな枠組みでの利用場所を問う設問となっている。

児童コーナーの利用がほとんどとする回答が一番多く、40名(29.4%)であった。続いて、児童コーナーの利用が多いが、一般コーナーもたまに使うとする回答が多く、39名(28.7%)であり、児童コーナーも一般コーナーも同じように使うとする29名(21.3%)が続く。

一般コーナーの利用がほとんどであるとする回答は11名(8.1%)で、一般コーナーの利用が多いが児童コーナーもたまに使うとする回答は、15名(11.0%)であった。

未回答が2名(1.5%)あった。

児童コーナーを利用している(番号3・6以外の合計)利用者は125名(91.9%)、一般コーナーを利用している(番号1・6以外の合計)利用者は96名(70.6%)となる。

6. 図書館の利用内容(問6)

問6では、図書館を利用している136名に対して、図書館の利用内容を尋ねた(表6)。回答は複数回答を可としている。

本、雑誌、CD、DVD等の図書館資料を見たとする閲覧サービス利用者は52名(38.2%)、図書館資料を借りたとする貸出サービス利用者は103名(75.7%)であった。おはなし会やその他イベント等の図書館行事への参加は52名(38.2%)、ポスターやチラシ等による情報収集が35名(25.7%)であった。

その他の利用が3名(2.2%)あった。記述された内容は、「資格取得のための勉強」「勉強」「好きな本を探したいと思って色々ためさせてもらってます」である。

未回答者は4名(2.9%)であった。問6からアンケートが裏面になるが、未回答者のうち3名は、裏面の記載がまったく無いことから、裏面のアンケートに気がつかなかった可能性がある。

7. 図書館との複合に関する意識(問7)

問7では、図書館を利用している136名に対して、支援センターに図書館が隣接していなかった場合、図書館の利用がどうなっていたと考えられるかを尋ねた(表7)。

隣接しているかいないかに係わらず図書館利用はしていると回答した利用者は17名(12.5%)であった。

一方、図書館は利用していないと思うが33名(24.3%)、利用はするが今ほどの利用はしていないと思うが82名(60.3%)であった。計105名(84.6%)が、図書館と隣接する環境が図書館利用を促進していることを認識している。

未回答が4名(2.9%)あった。

8. 図書館との複合に対する抵抗感(問8)

問8では、図書館を利用している136名に対して、センターに図書館が隣接していることへの考えを尋ねた(表8)。

抵抗感があると回答したのは1名(0.7%)、最初は戸惑ったが今は良いと考えているとする回答は5名(3.7%)で、子どもにとって良い配置だとする回答が127名(93.4%)で大多数を占めた。

本問ではこの設問に関連しての自由記述欄を設けている。37名からの記述があった(資料2)。2名から、「子どもがもう少し大きくなったら、もっとたくさん一緒に利用したい」、「子どもが本をやぶいたりなめたりしてしまうので、今は借りづらい」という小さな子ども連れならではの悩みがあり、1名から「子どものいない利用者さんは子どもの

声はどう思っているのか、うるさくないか不安はありますか」という不安の声が寄せられた(当該回答の資料文末に※印)。これ以外は全て施設の在り方に肯定的な感想を寄せている。

なお、選択肢で、「①静かにしなければならぬ」と思い、抵抗感がある」を回答した1名と、記述で音を出すことへの不安を記述した回答者1名は別人である。

9. 図書館への要望(問9)

問9では、図書館を利用している136名に対して、図書館への要望等について自由記述欄を設けた。34名(25.0%)からの記述があった(資料3)。内容の類似性からまとめたものを表9に示す。

34名中、15名(44.1%)が現在の状況に肯定的であり、要望も特に出していない(番号1)。図書館に対して、あるいは支援センターとの関係に対して、満足度が高い状況がうかがわれる。

要望としては、6名(17.6%)がイベントの開催を希望している(番号2)。

図書館資料に関する要望も6名(17.6%)からあった。具体的には、「新書コーナーを一つに」、「図書館で借りる本と支援センター内で見られる本が一緒になっているといい」という排架に関するものと、CD、DVD、IT系の本という具体的な要望と、本とのふれあいを期待という漠然としたものが出されている(番号3)。

運営に係わる要望として、「小さな子のさわぐことがあっても長い目でみてほしい」、「子どもが声を出して遊べるフリースペースがあったらうれしい」、「一般コーナーの方にも子どもが遊べるコーナーがあると大人の本を選びやすい」、「少しの間子どもを預かって」、「テーブルが埋まっていることが多い」、「臨時休館が多い」、「県外の人でも図書利用カードが作れたらうれしい」が出ている(番号4)。

10. 図書館未利用者の意識(問10)

問10により、問4で図書館を利用していないと答えた27名に対して、図書館を利用するには何が必要かを尋ねた。18名からの記述回答があった(資料4)。

記述内容を、表10の番号1から5までに分類した。複数の内容にわたる回答があるため、人数は延べ人数であり、%は問4において図書館を利用していないと回答した27名が分母である。

27名のうち、28.1%にあたる9名がこれから図書館を利用すると回答している(番号1)。9名中4名は初めて来館した利用者である。

図書館への要望としては8件(番号2・3)があった。資料関係の要望では、DVD、マンガ、育児書や離乳食の本、音の出る仕掛け絵本、雑誌が挙げられ計4件あった。場所にかかわる要望として、

自習室および声を出す子どもと一緒に本を読める場所の設置の2件があり、2名からは本を紹介するレファレンスサービスへの期待が出されている。

好意的感想(番号4)は、「初めてきたので、今の図書館とてもよさそうだなと思いました」、「市外に引っ越してしまったのではありません。楽しそうで塩尻市うらやましいです」の2件である。

4名が子どもを連れての図書館利用への抵抗感について言及している(番号5)。具体的には、「何でも口に入れたり、ぐしゃぐしゃにしまいそうので利用していなかったのですが、子どもが大きくなったのでこれから利用したい」、「落ち着いたら利用させていただきたい」、「館内では静かにしていないといけないので、子どもや赤ちゃんを連れて入りづらい」、「子どもが一緒だとなかなか一緒に選んだりが難しく自分も自由に見られない」である。

表1 回答者の年齢構成

番号	区分	人数	%
1	10代	0	0.0
2	20代	41	25.2
3	30代	100	61.3
4	40代	14	8.6
5	50代	0	0.0
6	60代以上	8	4.9
	計	163	100.0

表3 支援センターの利用頻度

番号	区分	人数	%
1	今回初めて来館	7	4.3
2	1週間に1回以上	61	37.4
3	1月に1回以上	66	40.5
4	年に数回程度	26	16.0
5	不明	3	1.8
	計	163	100.0

表2 支援センターの利用期間

番号	区分	人数	%
1	3ヶ月以内	44	27.0
2	6ヶ月以内	23	14.1
3	1年以内	37	22.7
4	1年以上	59	36.2
	計	163	100.0

表4 図書館の利用状況

番号	区分	人数	%
1	週に1回は利用している	24	14.7
2	月に1回は利用している	65	39.9
3	数ヶ月に1回程度は利用している	47	28.8
4	まったく利用していない	27	16.6
	計	163	100.0

表5 図書館の利用場所

番号	区分	人数	%
1	児童コーナーの利用がほとんど。	40	29.4
2	児童コーナーの利用が多いが、一般コーナーもたまに使う。	39	28.7
3	一般コーナーの利用がほとんど。	11	8.1
4	一般コーナーの利用が多いが、児童コーナーもたまに使う。	15	11.0
5	児童コーナーも一般コーナーも使う。	29	21.3
6	不明	2	1.5
	計	136	100.0

表6 図書館の利用内容

番号	区分	人数	%
1	本、雑誌、CD、DVDなどを館内で見た。	52	38.2
2	本、雑誌、CD、DVDなどを借りた。	103	75.7
3	おはなし会や講座など、図書館のイベントに参加した。	52	38.2
4	ポスターやチラシを見たり入手したりした。	35	25.7
5	その他(具体的にどんな利用でしょうか?)	3	2.2
6	不明	4	2.9
	計	249	

※人数計は、複数回答による延回答者数

※%は、回答者数136人に対する割合

表7 図書館との複合に関する意識

番号	区分	人数	%
1	図書館は利用していないと思う	33	24.3
2	他の図書館を利用していると思うが、利用頻度は今より低いと思う	82	60.3
3	他の図書館を同じように使っていると思う	17	12.5
4	不明	4	2.9
	計	136	100.0

表8 図書館との複合に対する抵抗感

番号	区分	人数	%
1	静かにしなければならないと思い、抵抗感がある	1	0.7
2	最初戸惑ったが、今は良いことだと思っている	5	3.7
3	子どもにとって良い配置の施設だと思っている	127	93.4
4	不明	3	2.2
	計	136	100.0

表9 図書館への要望

番号	区分	人数	%
1	現状に満足している	15	44.1
2	イベント要望	6	17.6
3	資料関係の要望	6	17.6
4	運営関係ほか	7	20.6
	計	34	

※資料3の各文末に本表の分類番号を記した。

表10 図書館未利用者の意識

番号	区分	人数	%
1	これから利用する	9	33.3
2	具体的要望	6	22.2
3	レファレンス要望	2	7.4
4	好意的感想	2	7.4
5	抵抗感・遠慮	4	14.8
6	未回答	9	33.3
	計	32	

※人数計は、複数回答による延回答者数

※%は、回答者数27人に対する割合

※資料4の各文末に本表の分類番号を記した。

IV. 考察

図書館に関係する問4以降について、若干の分析と考察を試みる。

1. 図書館の利用状況

問4において、支援センターに隣接する図書館の利用状況について尋ねた。結果は、表4のとおり83.4%が図書館を利用していると回答した。

塩尻市民全体に対しての同様の調査が無いため、直接的な比較はできないが、2018年3月31日現在における塩尻市立図書館の利用登録者数30,147人¹⁵⁾の内、塩尻市民は22,442人となっている^{注5)}。これにより求められる塩尻市立図書館の市民登録率は、塩尻市の人口67,449人¹⁶⁾に対して33.3%となる。

支援センター利用者における図書館を利用する人の割合が、著しく高い数値であることがわかる。隣接する施設間の相乗効果を図ったえんぱーくの施設配置が、一定の効果をあげていると考えることができる。

一方、こうした環境条件にあっても、16.6%の図書館未利用者にも注目しておく必要がある。この点については後述する。

2. 図書館の利用場所に関する傾向

問5において、図書館の児童コーナーと一般コーナーという、大きな区分けによる利用場所について尋ねた。支援センターと直接隣り合っているのは児童コーナーであり、それは支援センターとの相乗効果を図ったものである¹⁷⁾。調査対象者が当該支援センター利用者であり、当然ながら子育て中の保護者であることから、児童コーナーの利用度が高いであろうという仮説のもとに、設問を設定している。結果は、表5のとおりであった。

児童コーナーの利用がほとんど(番号1)、あるいは児童コーナーの利用が主で一般コーナーもた

まに使う(番号2)とする回答の合計、すなわち、児童コーナーを中心に利用しているとする回答は、58.1%であった。

一方、一般コーナーの利用がほとんど(番号3)、あるいは一般コーナーの利用が主で児童コーナーはたまに使う程度(番号4)とする回答の合計は、19.1%にとどまっている。施設の配置関係および利用者の特性から、近接する児童コーナーの利用が促進されている明らかな傾向をみて取ることができる。

アンケートは、閲覧等を含む図書館利用全般を尋ねており、単純に比較はできないが、利用可能な統計値として貸出数を見る。2017年度における塩尻市立図書館本館での一般図書の貸出は約26.0万冊、児童図書の貸出が約16.3万冊¹⁸⁾で、一般図書の貸し出しが約1.6倍になっている。このことから、アンケート結果が大きく児童コーナーの利用に偏っていることがわかる。壁を取り除いた複合化の結果が、利用者数および利用状況に直接的に現れていると言えよう。

また一方で、児童コーナーだけを利用しているとする回答者(番号1)を除くと、約7割が一般コーナーを利用しているという側面がある。IV-1で述べたとおり、支援センター利用者の図書館利用が、施設の複合化によって一般的な利用率を上回って促進されていることを考えると、図書館の利用が隣接する児童コーナーだけにとどまらず、図書館全体へ波及していることに注目しておきたいと考える。

3. 貸出サービス利用者の利用場所に関する傾向

問6において、図書館の利用内容について尋ねた。結果は、表6に示した。

図書館利用者136名のうち103名(75.7%)が利用している貸出サービスの利用者について、設問5による図書館の利用場所との関係を見る。

結果は、表11のとおりとなった。児童コーナーの利用が多いが、一般コーナーも使うとする回答(番号2)が最も多く、33名(32.0%)であった。児童コーナーの利用がほとんどとする回答(番号1)が26名(25.2%)で、児童コーナーも一般コーナーも同じように使う(番号5)とする25名(24.3%)が続く。

一般コーナーの利用がほとんどである(番号3)とする回答は11名(8.1%)で、一般コーナーの利用が多く児童コーナーもたまに使う(番号4)とする回答は、11名(10.7%)であった。

児童コーナーを利用している(番号3を除いた利用者)のは125名(91.9%)、一般コーナーを利用している(番号1を除いた利用者)のは96名(70.6%)となる。

表11における回答者の全体傾向と、表5での全体傾向について、大きな差異を認めることはできない。複合化によって利用が底上げされ、その利用は近接する施設(今回は図書館児童コーナー)により強く現れるが、極端に集中するのではなく、図書館利用全体の底上げになっていると言える。これは、前述したⅣ-2でもみられた傾向である。

表11 貸出サービス利用者の図書館利用場所

番号	区分	人数	%
1	児童コーナーの利用がほとんど。	26	25.2
2	児童コーナーの利用が多いが、一般コーナーもたまに使う。	33	32.0
3	一般コーナーの利用がほとんど。	7	6.8
4	一般コーナーの利用が多いが、児童コーナーもたまに使う。	11	10.7
5	児童コーナーも一般コーナーも使う。	25	24.3
6	不明	1	1.0
	計	103	100.0

4. 複合施設の影響

問7により、図書館が隣接していなかったと仮定しての図書館利用について尋ねた。回答状況は表7のとおりであった。

環境にかかわらず図書館は使うと答えたのは17名(10.4%)であった。アンケート回答者163名の約1割にあたる。この17名について、問6をみると全員が貸出サービスを利用している。1年間に1回以上の貸出サービスを利用しているのは、住民のおよそ割とされる¹⁹⁾ことから考えると、近似値であり、図書館利用が日常化している利用者として捉えうる。

ここに図書館が無かったら図書館は利用していないとする33名(以下、「グループA」)、または利用していても今より利用頻度は下がると回答した82名(以下、「グループB」)の合計115名(84.6%)の存在は、本調査が目的とする複合施設の図書館に対する影響を計る観点から意味のある結果といえる。

以下で、両グループに関する他の調査項目をみる。

1) グループAの図書館利用頻度

グループAについて、問4による図書館の利用頻度を表12によりみる。

週に1回以上の利用者が4名(12.1%)、月に1回以上の利用者が16名(48.5%)、数ヶ月に1回程度が13名(39.4%)となった。表4における図書館利用者136名に対する同区分の割合はそれぞれ、17.6%、47.8%、34.6%である。グループAにとっては、支援センターの利用に伴う施設環境によって偶然得られた図書館利用であるが、その利用頻度は、利用者層全体の傾向と変わらない状況であることがわかる。図書館利用が日常化していない場合でも、利用環境が整えば、その利用状況は決して消極的ではないことは注目に値する。

2) グループBの図書館利用頻度

グループBについて、問4による図書館の利用頻度を表13によりみる。

週に1回以上の利用者が17名(20.7%)、月に1回以上の利用者が40名(48.8%)、数ヶ月に1回程度が25名(30.5%)となった。グループAに比して、やや利用頻度が高い。図書館が隣接する環境によって、利用が活発化していると回答しているグループであり、わずかではあるが積極的な利用が行われているという結果となって現れた可能性がある。さらに調査を必要とするところである。

3) グループAの図書館利用場所

グループAについて、問5による図書館の利用場所を表14によりみる。

児童コーナーの利用がほとんど(番号1)、または児童コーナーが主で一般コーナーはたまに使う程度(番号2)とする回答が合計75.7%となる。問5で同じ枠の回答者は58.1%である。隣接する施設である児童コーナーの利用に、より偏在している状況がみて取れる。図書館利用が日常化していなかった利用者にとっては、施設の物理的な近さが利用に繋がる直接的な動機となっていることをみて取ることができる。

一方で、児童コーナーの利用を主とする14名(42.4%)以外の57.6%の利用者(番号2~5)は、一般コーナーも利用している。支援センターに隣接する児童コーナーの存在が図書館利用の動機となりつつも、直近の児童コーナーの利用にとどまらず、図書館利用が一般コーナーにまで波及していると捉えうる。

グループAが、生活の中に図書館利用が無かったグループであることを考えると、複合施設という環境下での、一体的な空間による図書館と支援センターの存在が、新たな図書館の利用を生み出していることがみて取れる。

4) グループBの図書館利用場所

グループBについて、同様に問5による図書館の利用場所を表15によりみる。

表5と比較すると、各項目全てが近い数値となっている状況をみて取ることができ、表14との違いが明らかになっている。このことから、この施設が無かったら図書館は利用していないとするグループAの利用が、前述したとおり児童コーナーに大きく向いている傾向をみて取ることができる。

5) グループAの図書館利用内容

グループAについて、問6の図書館利用内容を表16にみる。表6の全体傾向と比較すると、閲覧サービスの利用(番号1)が48.5%で、表6の38.2%に比して高く、これに対して貸出サービスの利用(番号2)が60.6%で、表6の75.7%に比して低い状況がみて取れる。イベント等への参加(番号3)の36.4%は、表6では38.2%で大きな差異はない。

図書館児童コーナーが支援センターに壁を隔てることなく隣接することで、通常では図書館利用者となっていなかったグループAに、児童書を手に入る環境が身近に提供され、利用に繋がっている。しかし、貸出サービスについては、支援センター利用者の平均値からみるとやや消極的なことがみて取れる。

6) グループBの図書館利用内容

グループBについて、問6の図書館利用内容を表17にみる。表6による全体傾向と比較すると、

表12 グループAの図書館利用頻度

番号	区分	人数	%
1	週に1回は利用している	4	12.1
2	月に1回は利用している	16	48.5
3	数ヶ月に1回程度は利用している	13	39.4
	計	33	100.0

表13 グループBの図書館利用頻度

番号	区分	人数	%
1	週に1回は利用している	17	20.7
2	月に1回は利用している	40	48.8
3	数ヶ月に1回程度は利用している	25	30.5
	計	82	100.0

表14 グループAの図書館利用場所

番号	区分	人数	%
1	児童コーナーの利用がほとんど。	14	42.4
2	児童コーナーの利用が多いが、一般コーナーもたまに使う。	11	33.3
3	一般コーナーの利用がほとんど。	2	6.1
4	一般コーナーの利用が多いが、児童コーナーもたまに使う。	3	9.1
5	児童コーナーも一般コーナーも使う。	3	9.1
	計	33	100.0

表15 グループBの図書館利用場所

番号	区分	人数	%
1	児童コーナーの利用がほとんど。	21	25.6
2	児童コーナーの利用が多いが、一般コーナーもたまに使う。	24	29.3
3	一般コーナーの利用がほとんど。	5	6.1
4	一般コーナーの利用が多いが、児童コーナーもたまに使う。	8	9.8
5	児童コーナーも一般コーナーも使う。	23	28.0
6	不明	1	1.2
	計	82	100.0

表16 グループAの図書館利用内容

番号	区分	人数	%
1	本、雑誌、CD、DVDなどを館内で見た。	16	48.5
2	本、雑誌、CD、DVDなどを借りた。	20	60.6
3	おはなし会や講座など、図書館のイベントに参加した。	12	36.4
4	ポスターやチラシを見たり入手したりした。	6	18.2
5	その他(具体的にどんな利用でしょうか?)	1	3.0
	計	55	

表17 グループBの図書館利用内容

番号	区分	人数	%
1	本、雑誌、CD、DVDなどを館内で見た。	31	37.8
2	本、雑誌、CD、DVDなどを借りた。	69	84.1
3	おはなし会や講座など、図書館のイベントに参加した。	34	41.5
4	ポスターやチラシを見たり入手したりした。	22	26.8
5	その他(具体的にどんな利用でしょうか?)	1	1.2
	計	157	

閲覧サービスの利用(番号1)は37.8%で、表6の38.2%と大きな差異はない。一方で、貸出サービスの利用(番号2)が84.1%で、表6の75.7%を上回っている。

7) 利用率について

前述した一般的な市民の図書館利用状況や塩尻市立図書館の利用登録率からすると、今回の調査で把握された利用状況は、異常に高い数値と取れなくもない。表7における、ここに図書館が無くても使っているとする17名(番号3)と、利用頻度は落ちてもしっかり使っているとする82名(番号2)が、一般的な意味での図書館利用者とする、アンケート回答者163名の60.7%に達するのである。

これに関しては、2つの視点をあげておく。

1点は、調査対象が、子育て中の親とその子どもという点にある。そこには、乳幼児期の子育てという多様な情報を必要とする親と、その親が豊かな成長を願って子どもに読書環境を提供したいという二重の資料要求がある。これに対して設けられた図書館児童コーナーと子育て支援センターという連携が、大きな効果を生んだのではないかという点である。これについては、複合しない子育て支援センターの状況との比較研究が求められる。

もう1点は、今回の調査が、図書館が隣接する環境下の支援センターをすでに利用する中で、あるいはすでに具体的な図書館サービスを受けている中で回答されたものであるという点である。子育てのための図書館利用やその周辺情報利用が、当然のものとして身につけてしまっている中での回答もあるのではないかという仮説である。すなわち、ここに図書館がなかった場合を仮定する設問に対して、図書館利用が当然という前提で回答が行われ、その結果として、その頻度は落ちるであろうという回答が導き出されたという可能性である。これについては、より詳細な意識調査が必要である。

5. 支援センター利用者の図書館への意識

図書館を利用している人には問8により、利用していない人には問10により、図書館への意識をみることができた。

前述したとおり、えんぱーくは複合する施設間を壁で仕切ることを避け、異なる機能(施設)の融合によるサービスの向上を目指した。しかしその検討過程においては、静寂を求める図書館の利用者と、子どもが声を出して遊ぶ支援センターの利用者双方から、方針への異論や不安が出されていた²⁰⁾。これはどこでも当然想定される場所である。そうした声が、施設の稼働後どうなっているのかは、本研究の大きな注目点であり、今後の複合施設運営の在り方を考えるうえで大きなテーマとなるものである。

その観点からみて、アンケート結果は、図書館が隣接していることについて、想像以上に抵抗無く利用され、また高く評価されていることがわかった。

ここに図書館が無ければ利用していないとは、通常生活の中に図書館利用が無い住民であることを意味する。すでに述べたとおり、住民におけるその割合は決して小さくはない。そこに、静かに本を読むだけではないという運営方針と利用意識を備えた、新たな図書館利用形態を生み出した意義は大きい。

6. 図書館未利用者の意識

問10により、図書館を利用していない27名中18名からの記述回答を得た。

回答者数は少ないが、これから利用するという回答者が3割近いほか、好意的な感想や要望が出されており、初来館者やまだ利用期間が短い利用者があることも含めると、今後の利用が見込まれる層が含まれていると把握しうる。

DVD等の資料要望やレファレンスサービス要望が挙げられているが、図書館を利用していないがゆえに、図書館サービスについて知らないでいる状況もあることをうかがわせる。施設問題に関係なく、未利用者への対応として不断の対応が求められるところである。

静かな図書館との共存や、子どもと図書館資料の扱いについての遠慮や抵抗感も示され、子ども連れの利用者に対する配慮や対応を検討する必要があることも示された。

問8において、図書館を使っている136名の中では、1名だけが静かにしなければならない図書館のイメージへの抵抗感を示した。これに比して、図書館を利用していない人の中に、図書館の静寂さのイメージや資料汚破損への心配や遠慮が強いことがうかがわれる結果も出ている。

複合施設における図書館が、どのようなコンセプトや方針で運営されるのか、それをどのように周知し理解を図るのか、図書館運営の課題をみて取ることができる。

V. 今後の課題と展開

本調査では、図書館と子育て支援センターが、壁で隔てられない同一空間で運営されている複合施設として「えんぱーく」を選定し、子育て支援センター利用者の図書館に対する意識調査を行った。この結果、当該施設の複合形態と経営理念が図書館利用を促進し、利用者からも高い評価を得ていることをみて取ることができた。

近年、筆者の知る範囲でも、塩尻市立図書館本館(えんぱーく)のほか、富山市立こども図書館(CiC)、新発田市立中央図書館(イクネスしばた)、荒川区立中央図書館(ゆいの森あらかわ)、大和市立図書館(文化創造拠点施設シリウス)、大和市立中央林間図書館(中央林間東急スクエア)、玉野市立図書館(メルカ)、高知図書館(オーテピア)、須賀川市中央図書館(須賀川市民交流セン

ターtette)など、図書館と他の施設とが、空間共有を明らかに意識的に行っている複合施設が現れてきている^{注6}。図書館の単独施設ではあるが、山梨県立図書館のように、図書館の中に交流機能を作り出している例もある。これらの施設では、声や音への規制を緩めるとともに、静寂を求めるニーズに向けた部屋の設置を行っている例もみられるようになってきた^{注7}。

図書館の複合施設化が顕著となり、またそれが図書館の課題として意識されるようになった1980年代^{注8}から、図書館と他施設との建築的組み合わせパターンについては、多くの検討分析が行われている²¹⁾。しかし、空間を共有し合う複雑な空間構成については、深く論述されていない。

例示した施設に見られるのは、可視化はもちろん、音や空間を共有し合う施設づくりが行われていることである。これらは、持っている機能を相互に活かし合い、より高度なサービスや空間を生み出そうという、新しいタイプの試みと考えられる。

こうした、図書館以外の機能と繋がり新しい図書館の機能を生み出そうとする流れは、前述した施設複合化の流れに加えて、『これからの図書館像』⁴⁾や『図書館の設置及び運営上の望ましい基準』²²⁾に見られる地域支援やビジネス支援等の図書館サービスの導入とも絡んで、新しい図書館経営の方向や図書館サービスの在り方を生み出そうとする流れとも密接に絡み合っているように思える。

図書館界においては、まだこうした施設論的な空間構成に研究は進んでいないが、建築界では先行研究が開始している^{注9}。今後、こうした調査研究をさらに進めつつ、図書館サービスの在り方について検討していく必要がある。

また今回の調査は、図書館児童コーナーと子育て支援センターという、子どもを中心とした公共事業同士の複合であり、事業目的の親和性により効果が発揮しやすいのではないかと、という側面があることはすでに述べた。複合施設の組み合わせは多岐にわたる。それらの多様な組み合わせと、

その施設状況、並びにそこで展開されている事業等の諸相すべてに着目し、分析を重ねていかなければならないと考える。

謝辞

この調査研究を進めるにあたり、塩尻市市民交流センターの皆様にご多大なご理解とご協力をいただきました。特に塩尻市子育て支援センターの皆様には、調査へのアドバイスとともに、現地での調査業務をお引き受けいただきました。また、子育て支援センター利用者の皆様にも快くアンケートにご協力をいただきました。これらのご支援とご協力無くして、本調査はできませんでした。心より御礼と感謝を申し上げます。

注

- 注1 北部子育て支援センターは、2019年7月、塩尻市広丘野村地区に所在する塩尻市北部交流センター「えんてらす」内に新築移転。
- 注2 塩尻市子育て支援センターへの聞き取り調査による。
- 注3 各広域連合の市町村数は、松本広域連合(以下「広域連合」省略)3市5村(塩尻市を含む)、諏訪3市2町1村、木曾3町3村、上伊那2市3町3村、大北1市1町3村。計9市9町15村。
- 注4 塩尻市子育て支援センターへの聞き取り調査による。
- 注5 塩尻市立図書館への聞き取り調査による。
- 注6 ()内は、当該図書館が所在する複合施設の愛称等による名称。
- 注7 筆者の知る例として、山梨県立図書館、高知図書館、大崎市図書館、沖縄県立図書館。
- 注8 日本図書館協会図書館施設委員会は、1981年、「併設・複合館の計画をめぐる」をテーマに初回となる複合施設に関する研修会を開催した。
- 注9 平柳伸樹・鯉坂徹・増留麻紀子「図書館の複合化による音環境が利用者に与える影響についての研究」『日本建築学会九州支部研究報告』第53号、日本建築学会九州支部、pp.101-104(2014)、平柳伸樹・ベンライサミ・鯉坂徹・増留麻紀子「公共図書館の音環境におけるサウンドスケープ・デザインの可能性」『日本建築学会九州支部研究報告』第54号、日本建築学会九州支部、pp.69-72(2015)、丹羽一将・田中隆一朗・栃井文平・コンダカル・サブリーナ・ラハマン・中井孝幸「図書館のある複合施設の利用状況からみた図書館像について「場」としての図書館計画に関する研究」『日本建築学会東海支部研究報告書』第53号、日本建築学会東海支部、pp.417-420(2015)、武脇卓磨・脇坂圭一「空間構成と場の雰囲気からみる複合図書館の性質」『日本建築学会東海支部研究報告書』第54号、日本建築学会東海支部、pp.385-388(2016)、桂田啓祐・山田深「図書館を含む複合施設における〈複合化の主題〉と〈空間構成〉」『日本建築学会大会学術講演梗概集(九州)』日本建築学会、pp.175-176(2016)、村瀬久志・中井孝幸「図書館を含む複合施設における音環境からみた「場」の選択性と居場所形成」『日本建築学会大会学術講演梗概集(中国)』日本建築学会、pp.119-120(2017)、村瀬久志・金田周平・中井孝幸「図書館を含む複合施設における面積構成と利用者属性からみたついで利用特性に関する研究」『日本建築学会東海支部研究報告書』第56号、日本建築学会東海支部、pp.513-516(2018)、酒井要・大島秀明「設置された図書館・施設の状況と図書館来館者数に対する影響 複合施設に設ける図書館整備に関する研究 その1」『日本建築学会計画系論文集』第83巻第752号、pp.1909-1918(2018)。ほか

文献

- 1) 日本図書館協会図書館政策特別委員会「公立図書館の任務と目標」(1989確定公表, 2004改訂).
- 2) 伊東直登「複合施設における図書館の運営とサービス ―塩尻市立図書館の事例を中心に―」『図書館界』Vol.69 No.2, 日本図書館研究会, p.87 (2017).
- 3) 総務省「公共施設等総合管理計画の策定要請」(2014).
http://www.soumu.go.jp/main_content/000286228.pdf(閲覧日2019.3.30)
- 4) これからの図書館の在り方検討協力者会議編『これからの図書館像 地域を支える情報拠点をめざして 報告』これからの図書館の在り方検討協力者会議, (2006).
- 5) 大串夏身『挑戦する図書館』青弓社, p.22(2015).
- 6) 塩尻市「これまでの主な経過」『市民交流センターオープンまでの動き(平成10年から平成22年7月29日まで)』
<https://www.city.shiojiri.lg.jp/tanoshimu/enpark/open/keika/omonakeika.html>(閲覧日2019.4.20)
- 7) 塩尻市「知恵の交流を通じた人づくりの場 塩尻市市民交流センター」概要パンフレット, (2010).
- 8) 日本図書館協会『日本の図書館 統計と名簿2018』p.104(2019).
- 9) 塩尻市「塩尻市市民交流センター運営管理方針」p.6(2008).
- 10) 前出9), p.15.
- 11) 厚生省児童家庭局長「地域子育て支援センター事業実施要綱」『特別保育事業の実施について』児発第445号, (1995).
- 12) 塩尻市「塩尻市子育て支援センター条例」2007制定.
<http://www10.e-reikin.net.jp/opensearch/SrJbF01/init?jctcd=8A85567BC4&houcd=H419901010024>(閲覧日2019.4.20).
- 13) 塩尻市「子育て支援センター利用案内」(2018).
- 14) 塩尻市「図書館を利用される皆さまへ」,
<https://www.library-shiojiri.jp/guide/guide.html>(閲覧日2019.3.25).
- 15) 塩尻市立図書館「平成30年度図書館概要」p.45 (2018).
https://www.library-shiojiri.jp/fs/4/2/5/5/_/2018_shiolib_gaiyo.pdf(閲覧日2019.4.20).
- 16) 塩尻市ホームページ「人口・世帯数」
<http://www.city.shiojiri.lg.jp/gyosei/tokei/setaisu/jinkosetaisuu.html>(閲覧日2019.4.20).
- 17) 伊東直登「地域に密着した図書館をつくるには ―塩尻市立図書館の試み―」『明治大学図書館情報学研究会紀要』No.7, 明治大学図書館情報学研究会, p.21(2016).
- 18) 前出15), p.9.
- 19) 常世田良, 「公共図書館における活動と出版物の売上に関係について―主として一般書の新刊を対象とした考察―」『論究日本文学』第104号, 立命館大学日本文学会, p.18(2016).
- 20) 塩尻市「市民交流センターオープンまでの動き(平成10年から平成22年7月29日まで)市民ワークショップ」
<http://www.city.shiojiri.lg.jp/tanoshimu/enpark/open/shiminworkshop.html>(閲覧日2019.4.25).
- 21) 西川馨『図書館建築発展史：戦後のめざましい発展をもたらしたものは何か』丸善プラネット, p.212(2010).
- 22) 文部科学省「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」(2012).
http://www.mext.go.jp/a_menu/01_1/08052911/1282451.htm(閲覧日2019.4.20).

【資料1：アンケート原文】

問1 ご回答くださる方についてお尋ねいたします。

性別 男 ・ 女

年齢 10代 20代 30代 40代 50代 60代以上

問2 この子育て施設の利用を始めてどのくらいたちますか？

- ①3ヶ月以内
- ②6ヶ月以内
- ③1年以内
- ④1年以上

問3 この施設の利用頻度はどのくらいですか？

- ①1週間に1回以上
- ②1月に1回以上
- ③年に数回程度

問4 隣接する図書館は利用されていますか？

利用とは、本などを借りるほか、館内で本や雑誌、チラシ等を見る、おはなし会やイベントへ参加するなど、図書館に関わることをすべて含みます。

- ①週に1回は利用している
- ②月に1回は利用している
- ③数ヶ月に1回程度は利用している
- ④まったく利用していない

■①～③をお答えになった方は問5へ、④をお答えになった方は問10へお進みください。

《問4で①～③と回答された方にお尋ねします。》

問5 この図書館の使用場所は？(子どもさんの利用も含めてお答えください)

- ①児童コーナーの利用がほとんど。
- ②児童コーナーの利用が多いが、一般コーナーもたまに使う。
- ③一般コーナーの利用がほとんど。
- ④一般コーナーの利用が多いが、児童コーナーもたまに使う。
- ⑤児童コーナーも一般コーナーも使う。

問6 どのような図書館の利用をしていますか？(複数回答)

- ①本、雑誌、CD、DVDなどを館内で見た。

- ②本、雑誌、CD、DVDなどを借りた。

- ③おはなし会や講座など、図書館のイベントに参加した。

- ④ポスターやチラシを見たり入手したりした。

- ⑤その他(具体的にどんな利用でしょうか?)

問7 ここに図書館が隣接していなかったら、どうしたと思いますか？

- ①図書館は利用していないと思う。
- ②他の図書館を利用していると思うが、利用頻度は今より低いと思う。
- ③他の図書館を同じように使っていると思う。

問8 図書館が隣接していることについてお考えをお聞かせください。

- ①静かにしなければならないと思い、抵抗感がある。
 - ②最初戸惑ったが、今は良いことだと思っている。
 - ③子どもにとって良い配置の施設だと思っている。
- ※この問いについて何かお考えや感想などありましたらお書きください。

問9 隣接する図書館に期待することや要望がありましたら、ご自由にご記入ください。

《問4で④と答えた方にお尋ねします。》

問10 図書館にどのようなものがあればご利用しますか？ どのようなことでも結構ですので、ご自由にご記入ください。

【資料2：問8自由記述】

- ・遊べるし、本にもふれあえるととてもありがたい場所です。
- ・人がたくさん集まり、情報も多く、いいと思います。
- ・子どもを支援センターで遊ばせた帰りに本を借りて帰れるので良いです。
- ・たくさんの本を読めるのでいつも利用させていただいております。お気に入りが見つかりました。
- ・今は子どもが小さいため児童書はまだあまり借りないけど、これからたくさん利用して本を読ませてあげたい。
- ・一度に、支援センターと図書館を利用できるか

- ら、とても利用しやすい。別々になっていても利用すると思うが、一つの場所でまとまっていると移動時間などかからず便利。
- ・本にアクセスしやすいのでよいと思う。
 - ・子どもの本もたくさんあっていいと思う。
 - ・遊びと絵本が一緒の空間にあるおかげで、娘2人は絵本が大好きです。
 - ・とても便利でいいと思う。大人の本の所とは離れているので、そこまで気にしなくても平気。遊んだ帰りに本を借りられるので、本を読んでもくれるようになった。
 - ・すごく使いやすくてよいと思います。
 - ・大人も本を借りて読む習慣が付くので良いと思う。
 - ・最初から抵抗なく利用できました。子どもを連れていますが、最低限のマナーさえ守ればとても使いやすいと思います。
 - ・図書館が隣接しているので、子育て中の親にとってついでに利用できて大変助かっています。
 - ・隣にあるのでとても利用しやすいです。
 - ・子どもが支援センターで遊んでいる間に親が借りたい本を選べるような仕組みがあるととてもうれしい。
 - ・小さい子どもと幼稚園の子が居るので、みんなで利用できてうれしいです。
 - ・子どもが遊んだ帰りに本を借りることが習慣になって、毎日絵本を読むことがあたりまえになっていて、とても良いと思う。
 - ・子どもと夫で支援センターを利用させていただき、私は図書館で子どもの本や私の本を見させてもらいとても助かっています。
 - ・図書館と支援センターは一緒にあると子どもも大人もどちらも利用しやすいと思うので、そういう場所が増えるといいなと思っています。
 - ・便利だと思う。
 - ・絵本など借りやすくて助かっている。
 - ・子どもが遊びに来るついでに本に触れる機会もあり、とても良いと思います。
 - ・子どもの身近な場所に図書館があることで、図書館利用のハードルがグッと下がると思います。生涯学習の拠点であるので、成長の中でとても大切な環境だと思います。
 - ・たくさん本を見ることができて良いと思う。
 - ・児童施設は実家に帰省の際に利用させていたのですが、駅からも近いので子どもと二人で来るともできるし、祖父に連れてきてもらってもそれぞれで過ごせるのでとてもありがたいです。
 - ・家が自由に動き回れる広さではないため、このような施設があると子どもも楽しめるからありがたいです。
 - ・すぐに本が読める環境なので私にとってうれしいし、子どもにも良い。
 - ・図書館と隣接していることにより、おはなし会などのイベントがあり楽しく利用させていたっています。
 - ・雨や暑いときでも一緒に2ヶ所行けるのでありがたいです。
 - ・遊んだ後に、借りて帰れる。
 - ・子どもを連れてあちこち移動するのは大変なので、隣接しているとありがたい。子ども用やママ向けの本を借りるハードルが低くなった。
 - ・子どもが本に親しむきっかけにできたのでとてもよかったです。自分の読書の習慣も、出産後に復活しやすかったので、気分転換のためによかったです。
 - ・支援センターがあるおかげで、利用者の皆さんが子どもに優しく助かっています。
 - ・子どもがもう少し大きくなったら、もっとたくさん一緒に利用したいと思います。(※)
 - ・とてもよい配置だと思うのですが、子どもが本をやぶいたりなめたりしてしまうので、今は借りづらい。もう少し大きくなったらたくさん利用したいです。(※)
 - ・ただ、子どものいない利用者さんは子どもの声にどう思っているのか、うるさくないか不安は

あります。(※)

【資料3：問9自由記述】

- ・市民でなくても気軽に利用できて、オープンなところがとてもよい。(1)
- ・館内がとても明るく、来るだけで開放的な気持ちになります。また、皆さん親切な対応・笑顔で挨拶してくださるのでうれしいです。今後ともよろしく願いいたします。(1)
- ・朝から夜まで開いてくださっていてありがたいです。これからも続けていってほしいです。本ももっともっと増えとうれしいです。(1)
- ・今のサービスに満足している。さびれないように維持していただきたい。(1)
- ・たくさん本があるので、本を選ぶ楽しみがあります。また、イベントもあるので楽しいです。静かにも大切ですがね。(1)
- ・年齢に合ったお勧めの本があれば借りやすいので、プロの選んだ本を読み聞かせしたい。(1)
- ・支援センターを利用するだけの日でも、図書館のスタッフさんに声をかけていただきありがとうございます。(1)
- ・子どもの絵本をいつも借りています。子どももいつも楽しく見えています。(1)
- ・育児の本や絵本がセンターの真横で借りれてとてもいいです。イベント(読み聞かせ)等もやってくれてサイコーです。(1)
- ・とてもきれいだし、居だけで楽しいです。最高。
- ・県外の司書の友人たちも注目しています。私も隣市在住ですが、県内外をリードする存在であってほしいと期待しています。(1)
- ・とても木のおいがして、気持ちが良いです。このままで満足です。(1)
- ・図書館が隣接されていて便利です。(1)
- ・今の方針で継続していただければいいです。(1)
- ・子どものころから本を読む子にしたいので助かります。(1)
- ・絵本の表紙とかでバッグを作ったり、何か作れるとうれしい。今やってるウォーリーをさがすのも楽しい。(2)
- ・たくさんイベントやってほしい。(2)
- ・イベントを楽しみに参加させていただいています。大変かもしれませんが、より多くのイベントがあるとうれしいです。(2)
- ・子供向けの本に関するイベントが今後もあったら参加したいです。(2)
- ・人形劇などがあるとありがたいです。(2)
- ・また、ツペラツペラのイベントをやってほしい。(2)
- ・新書のコーナーを一つにまとめてあると探しやすい。(3)
- ・いろいろな音楽のCDを置いてほしいです。(3)
- ・最新のDVDとかがあれば利用したい。(3)
- ・IT系の本を増やしてほしい。(3)
- ・本とふれあうことを期待します。(3)
- ・図書館で借りる本と支援センター内で見れる本が一緒になっているといいなと思います。支援センターを出るときに貸出していく感じ。(3)
- ・幼児コーナーがあるので、小さな子のさわぐことがあっても長い目でみてほしい。(4)
- ・子どもが声を出して遊べるフリースペースがあったらうれしいです。(4)
- ・一般コーナーの方にも子どもが遊べるコーナーがあると大人の本を選びやすいかも？(4)
- ・少しの間子どもを預かっていてくれると、ゆっくり本を選んで気分転換になると思う。(4)
- ・テーブルが埋まっていることが多いので、数を増やしたり、時間制にするなどの改善を希望(4)
- ・臨時休館が多い。(4)
- ・県外の人でも図書利用カードが作れたらうれしいです。(4)

【資料4問10記述】

- ・これから利用する。(1)
- ・今後、利用したいと思います。(1)
- ・まだ1回も利用したことも図書館の本を見たこ

- とも無いので、今度利用しようと思います。(1)
- ・本日カードを作ったばかりだから今後料理の本を借りようと思う。(1)
 - ・先日引っ越してきたため、塩尻のことをよく分かっていません。小さいころは図書館大好きっ子だったので、娘にも好きになってもらいたいので、これからはたくさん通うと思います。
 - ・きちんと図書館を見たことがないのですが、DVDとかマンガがあったら借りてみたいです。(1・2)
 - ・育児書や離乳食の本などお借りしたいです。(1・2)
 - ・今までは何でも口に入れたり、ぐしゃぐしゃにしまいそうで利用していなかったのですが、子どもが大きくなったのでこれから利用したいと思います。(1・5)
 - ・読みたい本はたくさんあるので、今のままでも利用したいです。落ち着いたら利用させていたいただきたいです。(1・5)
 - ・音の出る仕掛け絵本(2)
 - ・雑誌(2)
 - ・自習室のようなものがあればありがたいです。(2)
 - ・子どもと一緒に本をゆったり読める場所。館内では静かにしていないといけないので、子どもや赤ちゃんを連れて入りづらい。(2・5)
 - ・自分の興味に合った本を紹介してくれるサービス。自分では選ばない本でも、紹介してもらうことで出会えることも楽しいと思う。(3)
 - ・お勧めの絵本を紹介してくれる方が居たらうれしいです。(3)
 - ・初めてきたので、今の図書館とてもよさそうだなと思いました。(4)
 - ・市外に引っ越してしまったのですいません。楽しそうで塩尻市うらやましいです。(4)
 - ・子どもが一緒だとなかなか一緒に選んだり難しく自分も自由に見られないと思う。(5)